

真の美しさとは

咲夢まりあ

真の美しさは、その人の去り際に表れるように感じます。

『立つ鳥跡を濁さず』という諺もありますが、次に使う人や片付けてくれる人が不快な気持ちにならないように、自分が使った後を綺麗に整えて去りたいものです。

例えば、飲食店、化粧室、待合室、乗り物など公共の場など、特に人が見ていない所での行動が、その人の本質を表すと思います。

念入りにメイクを整え、化粧室を出て行った綺麗な人の使用後が、ゴミを放置していたり、髪の毛がたくさん落ちていたり、洗面台が水浸しだったら・・・
その美貌に真の価値があるのでしょうか。

使った椅子を元に戻す、読んだ本をラックに戻す、こぼした水滴を拭いておく・・・
そんなちょっとした行動がさりげなく出来ている人を偶然見かけたとき、とても素敵だと感じます。

相手に良い印象を与え、自分を美しく見せるための所作やマナーはもちろん大切ですが、人が見ているからそうするのではなく、自身の心からの行動が真の美しさに繋がると信じています。

ルッキズムが批判されることがあります、単なる外見比較ではなく、その美が真の美しさから輝くものであるのかを見抜く力が必要なのではないでしょうか。

